

奈良革新懇

平和・民主・革新の日本をめざす奈良の会(奈良革新懇)
〒630-8213 奈良市登大路5-5 奈良県教育会館内

【携帯】080-4243-6370 【E-mail】tukasa55122000@yahoo.co.jp

全国革新懇ニュース470号(奈良版)
《発行》平和・民主・革新をめざす全国の会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-8
千駄ヶ谷尾澤ビル

2025年6月号

221号



住民に寄り添い、住民と歩む市政へ

奈良市長選挙に「明るい会」から立候補することになりました



中村 あつ子さん

1957年大阪市生まれ。立
1979年大阪府内公立
小学校教員に。1991年
奈良市議員に当選
(4期14年)。2008年
奈良自治労連書記長。奈
今年1月から新婦人奈
良県本部会長に。

新日本婦人の会奈良県本部会長

奈良革新懇代表世話人

中村 あつ子さん

私は、7月20日の参議院選挙と同時に
行われる奈良市長選挙に、「明るい革
新奈良市政をつくる会」(「明るい会」)
から立候補することになりました。

今、市長選挙予定候補者として、新
婦人の会員の集まりに行き、暮らしの
困りごとやモヤモヤなどをお聞きして
います。まあ、出てくる、出てくる。

また、この間、さまざまな団体や専門
家の方からたくさんのお話を聞かせてい
ただいています。伺ったお話を政策に反
映させていきたいと思っています。

*

私は母から、「新聞を読む女の子は可
愛くない。お嫁に行けない」と言われな
がら育てられました。

そんな私が政治に関心を持つようにな
ったのは、小学校の教員になってから
です。一年生の担任になって、「クラスの

どの子も引き算ができるように」と懸
念に頑張りました。でも、一人から2人
はどうしても引き算ができるようにな
らず、私は努力不足に打ちひしがれま
した。当時は45人学級でした。

教職員組合青年部の学習会で、1学
級の人数や授業時間数は、文部省(当
時)が決めていることを知りました。

つまり、政治が子どもたちの邪魔
をしていたのです。「そうか、政治が変
わったら、どの子もわかる教育が創れ
るんだ!!」——私が政治に関心を持っ
た瞬間でした。

*

今、奈良市は、公民館廃止、学校統
廃合や保育園・幼稚園の民間委託、ク
リーンセンター建設など、重大な課題
がトツプダウンで決められています。保
護者・子ども・地域住民の声を無視し
ています。方針もひどいですが、進め方
や決め方もひどいのです。

私は、「住民に寄り添い、住民と歩む
市政へ」奈良市を変えていきます。

政治は変えられます。

*

奈良自治労連の書記長の時、県域
水道一体化に、奈良市が入らないこと
になりました。市長は一体化に入るた
めに、水道局長を民間から呼んできた
人物ですが、その市長を変えたので
す。この大きな運動は、私も事務局の
一員で頑張りました。市民の力が集ま
れば、奈良市は動く、政治は変えられ
るのだと皆と喜び合いました。

「消費税減税を国に求める奈良市」
「大軍拡を止め、平和を発信する奈良
市」「国言いなりの政治は行わない奈
良市」へ、変えていきましょう。

市長が変われば、必ず奈良市は変わ
ります。

*

7月20日は、国政も市政も同時に
変えることができる絶好のチャンスで
す。このチャンスを実現のものにするた
めに力を合わせて頑張りましょう。

激動する情勢をどうみるか

—新しい政治を実現するために— (下)

全国革新懇代表世話人 五十嵐仁さん

五十嵐仁さんの講演記録②

2025.4.12
奈良革新懇主催
情勢連続学習会
第1回

ユーザーの興味関心に合う同じような情報ばかりを表示し、異なる意見や価値観に触れにくくなる現象のことです。

これが今、選挙などでも問題になっています。この前の兵庫県知事選挙、その前の東京都知事選挙もそうです。3年前の参議院選挙の参政党のあたりからではないでしょうか。

情報戦が階級闘争の主戦場のひとつに

主戦場のひとつに



今日の社会では、情報の場面が階級闘争の主戦場のひとつになりつつあります。「機動戦」↓「陣地戦」↓「情報戦」と矢印にして示しましたが、「機動戦から陣地戦」というのは、グラムシというイタリアの政治思想家が言っていたことです。かつては機動戦だったけれども、これからは陣地戦だ、いかに陣地を取り合うかということが大きなたたかいのテーマになると。

それに対して一橋大学の佐藤哲郎という先生が、今日ではさらに情報戦の時代であり、情報によっ



講演する五十嵐仁さん

情報戦における革新懇の役割

ポスト真実

—真偽不明情報の氾濫

正しいことを言えば、受け入れられ、支持されるような生易しい世の中ではなくなっているということです。

何が本場で、何が嘘なのかがよくわからなくなっています。けれども、それがバーンと広がっていき、支持を高め、あれよあれよという間

に選挙で当選してしまう。なぜか。

「ポスト真実」の社会が変わってきているからです。

もともと私たちは、「事実」と共に、「事実」に近いけれども必ずしも事実ではない情報に取り巻かれています。この現実と情報によってつくられるような環境のことを「疑似環境」というふうにアメリカのジャーナリストのビドウワンという人が言っています。

こういう情報は、必ずしも事実を正しく反映しません。これがますます疑似性を高めていくだけではなく、中には嘘だと知りながら発信する悪質な人もいます。

目立てばいい—なぜ、目立てばいいと考えるのか。目立つことでアクセス数が増えてカウントが上がれば、金儲けに繋がるからです。これが問題なのです。

本当か嘘かよりも、たくさんの

人の注目を集められかどうかより重要な意味を持つようになりました。

思い込みと善意による「拡散」

これに対して、こんな重要なことを我々は知らなかったのか、みんなに教えなければならぬと思込んで拡散したり、これは大切なことだからこの人を助けてあげよう、善意で拡散しようという層が出てきます。悪意でやる人も当然います。こうしたことによって知らず知らずの内に片棒を担がされてしまう。同じような情報が、大量に押し寄せてくるものだから、いつの間にかそれが本当のことであるかと思ひ込まされてしまいます。

フィルターバブル

「フィルターバブル」という言葉があります。インターネット上で、

てどれだけの多くの世論を獲得していくか、これが大きなテーマになるのだということを言っています。ますますそうなってきたという感じが、うことだろうと思います。

若者に頼りにされ 進化する「ニューメディア」



しかも「新聞やテレビなどのメディアは古い、オールドメディアだ」と言われています。実際のところ、今の若い人たちはあまりこれに頼らなくなってきたいます。

これに対して、ネットや動画、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)……。SNSでも、文字ではなく動画が中心となっています。この「ニューメディア」というのがやっかいで、虚実ないまぜになっています。

しかも今、AI(人工知能)がどんどん進化していて、画像や音声や文章が簡単にできます。騙そうと思えばいくらでも簡単に騙せる、危うい社会になっています。

そういう社会に私たちは今生きているというのを十分に自覚する必要があります。

バーチャルは

最終的にはリアルと同じように

反作用していく

リアルからバーチャルへと情報の舞台が移行しているから、もうリアルの世界はどうでもいいというわけにはいきません。このところが重要です。

バーチャルは、最終的にはリアルのところから反作用してきます。だから嘘の世界は嘘の世界だけに留まりません。それに従って世の中がもし動いたり、政治が変わったりしたら、そのことによる不利益は私たち自身、騙された人たちにも降りかかってきます。

戦争は正しいと、騙されて戦争を支持した人の上にも爆弾は落ちてきます。戦争に反対だと言っていた人も、力が足りなければ結局戦争に巻き込まれてしまいます。騙されて原発を支持・支援した人たちのところにも、もし事故が起きたら放射能は漂ってきます。原発に反対をしていた人たちのところにも放射能は漂ってきます。だから我々は、リアルを守り、その毀損を防ぐためにもバーチャル

のあり方に対してもしちゃんと発言していかなければなりません。この両方をきちんと視野にとらえて、リアルでもバーチャルでも我々は発言をし、運動をしていかなければなりません。

ネット世界などの

サイバー空間は

第四の戦場に



情報戦、あるいはネットの世界というのは第四の戦場になってきています。

今国会で「能動的サイバー防御法案」というのが審議されています。衆議院が通って、今度参議院に送られましたが、これはプライバシーを侵害していく危険があります。サイバー攻撃があるかどうかを判断するために、SNSなどの通信も監視してプライバシーを侵害していくわけです。

攻撃されると認定された場合は反撃します。その認定がどのようになっているか、誰によってなされるのか、ということが問題です。サイバー空間で戦争が始まった時、国民が知らないうちに先制攻撃が行われます。こういう危うい状況が、今つく

られるようとしていることを私たちはしっかりと見ていく必要があります。

「能動的サイバー防御法案」は、6月15日の参院本会議で、自由民主党、公明党、国民民主党、新多数(共産、れいわ)の賛成多数で可決された。政府は警察や自衛隊に措置を講ずる考えです。

「繋ぐ」役割の発揮が

期待される革新懇

「分断と対立」のトランプ後の社会に対して、また、この間の市民と野党の共闘のさまざまな困難の中で、リアルな形で「連携と協調」「共闘」を建て直し、発展させることはますます大きな、新たな意味を獲得しつつあります。

革新懇が「人と人を繋ぐ」「人と政治を繋ぐ」「政党と政党を繋ぐ」という「媒介する」役割を今まで以上にはたしていかなければならなりません。

できることをできる形で

一学ぶ、知る・知らせる、

情報の取得と発信、

判断能力の重要性

できることをできる形でやる。そういう形で人が集まって、そしていろいろな話を聞いて考えるというところは極めて貴重になっていきます。ぜひこれからもこういう学習会を続けていただきたいと思えます。「学ぶ」「知る」「知らせる」「情報の取得と発信」、そして「情報リテラシー」「判断能力」をちゃんと鍛えないと騙されるといことです。

犯罪に手を染めたり、犯罪の手伝いをしたり、人を傷つけたり……、こういうことが簡単にできる社会となっています。逆に言うと、そういうことに対して、声を上げることが容易にできるようになったということなんです。

ネットやSNSを使って情報発信は個人でもできます。外に出ていなくても、机の前に座って、パソコンのキーボードを叩く力さえあれば世の中に対して声を上げ、訴えることができます。これを武器にしてたかえばいいのです。

目に見えるリアルな形でも

ネットなどバーチャルな舞台でも

声を上げよう

足腰が立つ人は、街頭に出て行って、リアルな形で声を上げる。東京都知事選の時は「一人街宣」というのがやられました。

そして、バーチャルな舞台でも声を上げる。可能な形で、できるような方法で、できる範囲で、声を上げていきましょう。それが重要です。

ネット社会になったとしても、やはり見える形でやる。世界では、反トランプの集会やデモがありました。東京の首都の中心部で「令和の百姓一揆」と名打ってトラクターが列をなしてパレードをしました。こういう目に見える形でのアピールが重要です。

集会や講演会の意義や役割というものを再認識するという必要もあると思います。

活字文化、

印刷物を大切にしよう

とりわけ、活字文化、印刷物を大切にしなければならなりません。

今、これらがどんどん衰退しています。街の本屋が消えて行き、週刊誌が隔週誌になっています(「週

刊現代」が隔週に)。新聞系の週刊誌は全部なくなりました。新聞は発行部数を減らしています。東京新聞は夕刊がなくなってしまいました。

こういう形で、今どんどん活字文化が衰退しています。

だから、本を出すのもなかなかたいへんなのです。昔は本を出すに印税がもらえましたが、今は本を出すに出版協力を要求されまう形で、今出版文化が消えそうです。活字文化、出版文化を支えていくことも重要となっています。

重要な情報取得手段の

紙媒体の「しんぶん赤旗」を守る

守ることの意義

「しんぶん赤旗」―これが、今危ない。紙媒体で継続して出せるかどうかという状況です。

これは日本共産党の機関紙ですが、日本の社会運動、政治運動全体にとつての機関紙です。それを共産党が出しているだけです。ここにいるみなさんは、ほとんどの方が「しんぶん赤旗」から情報を得ているのではないかと思うのです。

が、これが出なくなったら本当に困ります。重要な情報取得手段ですから、ぜひこれを維持するためにも協力していただきたいと思えます。

いかに「しんぶん赤旗」が鋭い情報を提供しているかということも万博協会が示しました。万博協会が「しんぶん赤旗」に取材拒否をしました。「しんぶん赤旗」が本当のことを書いているということも万博協会が証明したようなものです。

書いてほしくないことを書かれているのです。また一つ、「しんぶん赤旗」に勲章を与えたようなものだと思います。みんなで「しんぶん赤旗」を守っていくことではありませんか。

「結び」として

―諦めてはならない

3年前は「黄金の3年間」

3年前に参議院選挙が行われました。自民党は単独での改選過半数を超える圧勝。この結果、自民

党、公明党、日本維新の会、国民民主党などの「改憲勢力」は衆参共に憲法の改正発議に必要な3分の2以上の議席を獲得しました。

私はもう歳だから、政権交代をみることは難しいだろうなあと思つてしまいました。

当時は、3年間は国政選挙がないことから「黄金の3年間」と言われ、岸田さん、やりたいことがやれる、明文改憲の発議だってできるじゃないかと言われていました。

この3年前の参議院選挙の最終盤に奈良市の西大寺で安倍さんへの銃撃事件があり、安倍追悼ということ、自民党は大勝利したわけです。しかし、国民の税金を使って安倍さんの国葬儀を岸田内閣が強行。これによって岸田政権の支持率がガタンと落ちました。

この時、フジテレビは安倍国葬の様子を中継しました。当初2時間で中継する予定であったのを、前倒しをして2倍の4時間に変えさせたのは誰だろう、今話題の人—フジテレビの日枝会長でした。

安倍さんと酒を飲んだり、うまいものを食べたり、ゴルフでいっしょに遊んだり…と、こういう非常に

親しい関係にあった日枝さんがテレビ番組の編成権に介入したのです。

実際には「泥沼の3年間」、 政権の危機に

それからですよ、ケチがつき始めたのは。どんどん内閣支持率が下がり、さらに裏金問題…というこ

とで、「泥沼の3年間」に。とうとう岸田さんは総裁選挙に出ることもできず、続投断念に追い込まれました。結局、解散総選挙に打って出ましたが、自民党は敗北しました。

そして今、政権交代させようじゃないかと。「撃破」して、自民党政治にさよならをという本を私が出せるようなうれしい状況になりました。

ああ、やっぱり諦めてはいけない。諦めてはならないということ、本当に私自身実感させられました。

選挙での一票の力で

政治は変えられる

政治は変えられます。変えてき

たのです。変えたのです。

去年の総選挙、そしてこれからの都議選、参議院選挙で、きちんと敗北に追い込むことによって政治を大きく変えることができま

す。そしてこの2025年を、日本の歴史を、戦後史を、根本的に転換する節目の年にしなければならぬと思います。そしてそれができる、1994年と2009年に次いで第三の政権交代を2025年に実現することができないではないか。

ここまで頑張ってきてよかった、いよいよ自民党にひと泡吹かせることができるような、そういう局面を迎えられるかも知れません。

私にとっては本当に人生の最後、物心がついてから自民党とたたかい続けてきましたが、1965年に日韓条約を批准する、しないで問題になった時に中学校の社会科で学んだ時以来、自民党を倒すということ、を学問的にも私自身の個人的課題として掲げてきたこと、いよいよ最後のまとめです。

一太刀あびせ、これならよからう、子どもたちや孫たちにこうい

う世の中なら残すことができるという状況を生み出すことができるまで長生きして、お迎えを待つというふうにしたいと思います。

自民党を撃破し、新しい政治を生み出すまで、くたばってなるものかという気概を持って、みなさん、共に長生きしようではありませんか。

- 情勢を長期的な視野でとらえ、気概をもって頑張ろうと元気をいただきました。「黄金の3年間」と言われた前回参院選挙後の情勢が、実際には「泥沼の3年間」になったことから、諦めてはならないと思いました。
- SNS等で間違った情報をうのみにした人々が、どうやったら正しい情報に触れることができるのか教えてほしい。

五十嵐講演の

感想文より

- 五十嵐先生の講演はとてわかりやすく、平和への思いを確信とすることができました。あきらめないで当たり前の平和を守り、つくっていききたいと思います。
- ともすれば悲観的になりがちなニュースばかりが流れている昨今なのだが、五十嵐先生の熱気あふれるお話を聴いて、今こそ声を広げていかなければいけないと思いました。



第5回口頭弁論終了後に奈良弁護士会館で行われた報告集会。名古屋の中谷雄二弁護士が30分ほどのミニ講演を行いました。

自衛隊名簿提供違憲訴訟(RYU裁判) 第5回口頭弁論と報告集会が行われました

満席の傍聴席

奈良市の18歳(提訴時)の高校生・RYUが本人の同意なく自衛隊に個人名簿が提供されたとして、市と国を訴えている「自衛隊名簿提供違憲訴訟」の第5回口頭弁論が6月10日、奈良地裁101号法廷で行われました。67席の傍聴席は第4回口頭弁論に続いて支援者で満席となりました。

原告弁護団の鋭い主張

原告側弁護団は北海道・宮城・愛知・京都・大阪・兵庫などから集結し、被告の行為は憲法9条、13条、92条に触れる違憲・違法だと次々に論旨鋭く主張し、一時間ほどの弁論となりました。

会場いっぱい報告集会

佐藤博文弁護士(北海道)は住民基本台帳が国ではなく地方自治体が管理するのは、戦争の反省から「日本国憲法により、全体主義・軍国主義を否定し、個人の尊厳、個人主義を最高の価値とされ、その制度的な保障」からだ」と強調。

弁論終了後、奈良弁護士会館で報告集会在が開かれ、オンラインでの参加も含めて80人が参加しました。

また、22歳の個人情報も「自衛官募集のため」として地方自治体から自衛隊に提供されているが、自衛隊から22歳の該当者に勧誘ハガキが届いたという話はなく、これは目的外使用となっているのではないかと指摘しました。

中谷雄二弁護士が大垣警察市民監視事件についてのミニ講演を行い、市民運動が警察によって監視されている実態を告発しました。

そして佐藤博文弁護士は、地方自治体による国言いなりの自衛隊名簿提供が今日の日本の戦争遂行体制づくりに直結していることを述べ、与謝野晶子の「君死にたもふ事なかれ」を引用して原告弁護団の陳述を格調高く結びました。

弁護団のそれぞれの弁護士からの発言があり、「本件は徴兵制に向けての地慣らしだ」との指摘もありました。

「明るい会」の中村あつ子市長候補が特別発言を行い、「自治体職員は二度と『赤紙』を配るべきではない。市政を変えよう」と訴えました。

「明るい会」の中村あつ子市長候補が特別発言を行い、「自治体職員は二度と『赤紙』を配るべきではない。市政を変えよう」と訴えました。

奈良安倍国葬反対裁判 (故安倍晋三国葬参列に係る公費返還等請求事件)

第9回口頭弁論の日程が決まりました

◆奈良地裁での次回(第9回)口頭弁論では、当事者尋問と証人尋問が行われます。特に、龍谷大学の田直史教授への学者証人の尋問は画期的で、他の学者証人の採用に繋がればとの期待の声が寄せられるなど、全国的にも注目されています。何としても傍聴席を満席にしましょう!

- 当事者尋問 松本 健さん
《尋問担当》今治弁護士
- 証人尋問
大田直史・龍谷大学教授
《尋問担当》諸富弁護士

第9回口頭弁論

7月31日(木) 14時~14時30分
奈良地裁 101号法廷 (傍聴席 70)
口頭弁論 意見陳述

裁判報告集会

14時30分から
奈良県教育会館
4階大会議室

被爆80年、核兵器のない、戦争もない平和な世界へ

奈良県網の目平和行進

2025

2025年は広島・長崎の被爆から80年の年。核兵器使用の危険が高まる情勢を背景に、昨年12月にノーベル平和賞が日本被団協に授与されたことは核兵器の非人道性を訴える被爆者と核兵

器廃絶を求める世界の運動に新たな勢いを与えています。

網の目平和行進の報告 ①

奈良県は6月5日にスタート

奈良県では、6月5日の川上村の訪問を皮切りに原水爆禁止2025年奈良県網の目平和行進がスタートしました。今年も奈良県と39市町村すべての自治体を訪問します。



天理市庁舎前で歓迎セレモニー



これまで訪問した全自治体から核兵器廃絶をいただきました。ペナントをいただきました。

5日と6日に訪問した奥吉野の7自治体(川上村・上北山村・下北山村・十津川村、野迫川村・天川村・黒滝村)では、村長や副村長、議長などが対応し、どの自治体からも核兵器廃絶を日本政府に求めるペナントに記入していただきました。宿泊した旅館や十津川大水害の時に協力いただいたお店などからもペナントをいただき、奥吉野で18本のペナントが集まりました。

6月9日の吉野町・下市町・大淀町の訪問では、特に大淀町で教組の先生などが次々に来てくださり、要請団は20人になりました。翌10日の安堵町・川西町・三宅町・天理市の訪問では、地元の住

民の方も参加し、担当者が熱心に話を聞いてくれました。

天理市では庁舎前で歓迎セレモニーが行われ、15人とワンちゃん2匹で平和行進。商店街では「青い空は」の平和の歌声が響きました。

11日の御杖村・曾爾村ではいずれも村長と議長が対応しました。曾爾村の議長は意見書に積極的でした。

*12日以降の自治体要請行動と網の目平和行進の報告は次号に続きます。



京都から平和行進の引継ぎ場所が変更!!

6月26日の12時45分に京都からの平和行進の引継ぎが予定されていますが、引継ぎ場所が例年の般若寺ではなく、青山1丁目の清水園に変更されました。ご注意ください。

6月8日、大阪うつぼ公園で「もうやめよう危ない原発!大集会inおおさか」が開催され、全国から1200人が参加。「とめよう!原

発依存社会への暴走」「老朽原発ただちに廃炉!」などと訴え、御堂筋を行進しました。奈良から(少なくとも)35人以上が参加



松本俊一さんが壇上で全労連近畿ブロック副議長としてスピーチしました。

「原発なくせ!」

もうやめよう危ない原発!大集会 in おおさかに

1200人



奈良から35人以上が参加

上に参加。原発ゼロ・被災者支援奈良のつどい実行委員会共同代表の松本俊一さん(全労連議長)が全労連近畿ブロック副議長として集会でスピーチをしました。原発事故の除染土最終処分場の受け入れについて「条件次第で検討の意向」と回答した5県内のひとつが奈良県!県民の意向も聴かずにとんでもない回答をした奈良県山下知事の責任は重大です。「原発なくせ!」の県民世論を大きく広げていきましょう。

◆編集後記◆

◆「明るい会」の中村あつ子市長候補は、私たち奈良革新懇の代表世話人。市立病院づくりを実現していった運動や県域水道一体化に奈良市が入ることを市長に断念させていった運動の話は実におもしろい。市民による新しい政治の勘所を候補者自身が実践的につかんでいる。◆奈良(県)市民連合・奈良1区市民連合・奈良2区市民連合・市民連合中南和が主催して「参院選キックオフ集会」を6月26日(木)14時からやまと郡山城ホールで開催する。全国革新懇代表世話人の富田宏治さんが講演。「さよなら自民党政治、その先へ一歩断りに抗して包摂の政治を」がテーマ。無茶苦茶忙しい時だが、時間をつくり出して行こう。◆忙しいのはお互い様だけれど、6月24日(火)16時からJR奈良駅前での第41回ウクライナ・ガザ県民集会&デモのことをお忘れなく。